



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第20号
令和3年 9月13日

6年生 日韓交流オンライン授業 ～ポストコロナ時代のSDGs達成に向けて～



ポストコロナ時代のSDGsの達成に向けた日韓交流オンライン授業を9月7日(火)と13日(月)に行いました。

大和田南小学校の学校教育目標は「世界に生きる大南の子」です。開校当時は「世界に生きる日本人」でしたが、国際化が進み、外国籍の子供たちも多く通うようになりました。そのため学校教育目標も「日本人」から「大南の子」へと変わりました。

本校では、この教育目標を実現するために、ユネスコスクールへの加盟を果たし、生活科、社会科、総合的な学習の時間、交流学习、イマージョン学習(英語で他教科を学ぶ学習)を研究教科として日々実践を積み重ねています。



「世界に生きる」という教育目標を実現するための手立ての一つとして、2019年7月、鈴木未央子教諭が文部科学委託事業(運営: ACCU)「初等中等教職員国際交流事業」に参加し、韓国の学校を訪問してきました。

2020年2月、今度は、韓国の教職員を本校にお迎えすることになっていましたが、新型コロナウイルスの発生により、残念ながら中止となってしまい、交流を行うことができませんでした。



2021年度、ユネスコ日韓教職員の交流は、新型コロナウイルスの終息がまだに見込めないため、7月から10月にかけてオンラインでの開催となりました。参加校は、日本全国のユネスコスクールの中から8校、約24名が参加しています。本校からは、村瀬正教頭、鈴木未央子教諭、辻本涼教諭の3名が学校代表として参加しています。

このオンラインプログラムは、次のように3段階で構成されています。

1. SDGsの地域社会での達成をテーマとして、ブレンド型学習の授業を共同開発する。
2. 日韓の教職員が取組結果について、相手国の児童に対し授業を実施する。
3. オンライン交流を通して学びを共有する。

オンラインによるブレンド型学習の共同開発の主な目的は、互いの学校の教育システムやユネスコスクールとしての活動をより深く理解していくことにあります。これまでにない新しい試みのため、今年度は、6年4組が学校代表として交流しましたが、近い将来、海外の学校とのオンライン授業も普通に行われるようになっていくのではないのでしょうか。



今回のオンライン授業では、韓国側がソウル大学付属小学校とクワンジュ国際大学付属小学校の2校です。クワンジュ国際大学付属小学校の参加児童数は7名ですが、全員が海外からの帰国子女とのことでした。

第1回目の交流授業では、アイスブレイキングとして、日韓両国の子供たちの中で流行しているものや興味のあるものについてクイズ形式で出題し合いました。本校の6年生は、日本で流行しているマンガや食べ物などについて紹介しました。互いの国のことを紹介し合ううちに段々と距離が縮まってきたように感じました。



後半は、「人権」をテーマに日韓双方の子供たちがプレゼンテーションを行いました。身近な問題から人権とのつながりを考えていました。45分という限られた時間でしたが、とても中身の濃い授業となりました。

第2回目は、日韓双方の子供たちが考えた「子ども人権宣言」を発表することになっています。交流授業の様子は、ホームページで紹介していきたいと思います。